第８号様式(第１０条関係)

平成２４年度大分県地域活性化チャレンジ支援事業実績報告書

平成 25 年１月４日

大分県中部振興局長　工藤　利明　殿

補助事業者
住　　所　　大分市城東町２番２号
名　　称　大分みちくさ小道　実行委員会
代表者名　代表　門脇　さゆり　　㊞

平成２４年７月４日付け中局地域第２５８号で交付決定通知のあった平成２４年度大分県地域活性化チャレンジ支援事業について、下記のとおり実施したので、大分県地域活性化チャレンジ支援事業費補助金交付要綱第１０条の規定により関係書類を添えて報告します。

記

１　補助事業の効果

11 月に大分市内において、参加者体験型交流プログラムを 30（延べ実施回数 36 回、延べ参加者数 289 人）提供するまち歩きイベント「大分みちくさ小道」を実施して、大分市の魅力を広く情報発信し、市民が自分の暮らす地域の魅力を再認識することにより、地域の活性化を図るとともに、次年度以降の定期的な開催に向けてのイベント運営上のノウハウを取得した。

２　補助事業完了年月日　　平成２４年１２月２８日

３　添付書類

(1) 事業実績書（第９号様式）
(2) 収支決算書（第１０号様式）
(3) 契約書又は見積書の写し
(4) 備品、成果物及び取組状況等の写真
(5) 領収書又は請求書の写し
(6) 財産管理台帳の写し
(7) その他知事が必要と認める書類

第９号様式（第１０条関係）

事　業　実　績　書

Ⅰ．事業の概要

※今回実施した事業の概要について、ご記入ください。

【事業名】（実施した事業の名称を記述してください。）

大分みちくさ小道事業

【事業概要】（事業の内容を簡潔に記載してください。）

大分市は、高度経済成長期に新産業都市として、鉄鋼や石油化学などの重化学工業を中心に著しい発展を遂げ、県都として経済や文化、教育の中心を担っている。また、中世の大友宗麟の時代には、西欧文化が国内でいち早く華開くなど、他地域とは異なった多様な歴史性もあわせ持っているまちでもある。

しかしながら、別府や湯布院に比べ、大分市はまちとしての情報発信が十分にできているとは思えず、また、まちが持つ魅力に気づかずに生活している市民も多くいるのではないかと思われる。

そこで、本年 11 月に大分市内等において、参加者体験型交流プログラムを 35（延べ実施回数 36 回、延べ参加者数 289 人）提供するイベント「大分みちくさ小道」を実施して、大分市等の魅力を広く情報発信するとともに、市民が自分の暮らす地域の魅力を再認識し、誇りを感じてもらった。

事業の実施に当たっては、地域づくりに関心を持つ市民等を対象としたワークショップ等を開催することにより、プログラムを提供する人材（誘い人）の発掘・育成を行うとともに、「歴史」や「産業（工場）」、「食」などの地域資源の掘り起こしを行い、参加者と達人同士が交流できる「まち歩き」プログラム等を造成した。

イベント周知等の情報発信については、別府市における地域イベント「別府温泉泊覧会(オンパク)」において実績のある NPO 法人ハットウ・オンパク(ジャパン・オンパク)のネットワークを活用して、広く提供した。

本事業の実施を通して、誘い人の育成を行うとともに、プログラム参加者や達人に対するアンケート等を実施すること等により、運営上の課題等を検証し、次年度以降の定期的な開催に向けた運営のノウハウを取得した。

Ⅱ．事業の内容

※今回、実施した事業の内容について、記載して下さい。

1　事業の背景や目的

［①事業に取り組もうとされた背景やきっかけ②今回何を目的として事業を実施したか③最終的にどのような地域活性化に向けた取り組みを目指しているか、④予定事業が旧町村部の活力維持や活性化に向けた持続可能な取り組みとして大分県地域の元気創造事業での採択を目指すものは、事業実施箇所（旧町村部名）、の①～④について記載してください。］

大分市内は、大規模小売店舗の撤退等、近年「まち」の活力が弱まっている。

また、市内には、西洋文化の発祥の地・小藩分立の歴史や市の発展を支えた新産都の工場群、個性的な店・人など、市外の人はもちろん市民も気付いていない魅力的な地域資源があるものの、他市に比べ、まちの情報発信や地域資源の活用がうまくできていない。また、一方、地域づくりには興味はあるものの、実際に活動へと結び付いていない市民等もいる。

そこで、小規模体験型交流イベントの先駆けである「オンパク」の手法を用いて、大分市内において地域資源を活用したまち歩きプログラムを展開する「大分みちくさ小道」事業を新たに開催し、地域の魅力を情報発信することにより、地域の活性化を図る。

事業実施に当たっては、まち歩きプログラムの仕掛け人「誘い人」が必要である。そこで、地域づくりに興味を持つ市民等に、地域資源の発掘・活用方法等プログラム造成のノウハウ等を修得させ、「誘い人」としての育成を図る。また、11 月の本事業の実施を通して、イベント運営上の課題等を把握し、定期的な開催に向けてのノウハウを取得することを目的とする。

2　事業の詳細

［今回実施した調査研究や試験的な実施の内容、仕組みについて、詳細に記載して下さい。］

（1）「誘い人」の育成

地域づくりに興味を持つ市民たちに対象に、地域資源の発掘や活用方法等、まち歩きプログラム造成のために必要なノウハウを修得するための研修会やワークショップを実施した。

（研修の内容）

第１回　日時：7 月 27 日（金）18:30～21:00
　　場所：コンパルホール 309 会議室
　　参加者数：

（内容）

第１部　講演「まちづくりとオンパクの役割」
　　講師：野上泰生氏（NPO 法人ハットウ・オンパク）
第２部　ワークショップ「プログラム作成」

第２回　日時：8 月 4 日（土）17:00～21:00
　　場所：コンパルホール 302 会議室
　　参加者数：

（内容）

第１部　「まち歩きを体験しよう」
　　まち歩きとはどういうものか実際に体験してもらった。
第２部　ワークショップ「プログラム作成」

第３回　日時：8 月 18 日（土）14:00～18:00
　　場所：コンパルホール 304 会議室
　　参加者数：
（内容）
　第１部　講演「えんぱくのプログラムについて」
　　講師　日高　誠司（えんぱく実行委員会）
　第２部　ワークショップ「プログラム作成」

第４回　日時：８月２４日（金）19:00～21:00
　　場所：コンパルホール 602 会議室
　　参加者数：
（内容）
　ワークショップ「プログラムのブラッシュアップ」

第５回　日時：10 月 7 日（日）19:00～21:00
　　場所：コンパルホール 306 会議室
　　参加者数：
（内容）
　「プログラム運営説明会」

第６回　日時：10 月 24 日（金）19:00～21:00
　　場所：コンパルホール 301 会議室
　　参加者数：
（内容）
　「各プログラムの説明及びプログラム実施上の注意点」

（２）参加者の募集

10 月 10 日から予約受付を開始した。参加者の募集にあたっては、別府市における地域イベント「別府温泉泊覧会（オンパク）」において実績のある NPO 法人ハットウ・オンパクの会員の中から、複数回参加実績のある会員を抽出し、ガイドブックを直接送付したり、また、オンパクの予約システムを活用したみちくさ小道のＨＰやフェイスブックの作成、マスメディアへの情報提供などにより、事業の周知を図った。

（３）イベントの実施

11 月 3 日（土）～11 月 29 日（木）の間、大分市内等において 30 プログラム、延べ 36 回実施した。プログラム参加者数は延べ 289 人となり、参加者達に地域の魅力を発信した。

※プログラムの内容等については、別添ガイドブック等参照

（４）検証会の実施

日時：12 月 16 日（日）14:00～17:00
場所：二八堂ギャラリー
（内容）

総社みちくさ小道の加藤せいこ氏を招聘して、検証会をワークショップ形式で実施。

カレンダー等を活用し、実施プログラムが重複しないような工夫が必要。
また、補助金では人件費が出ない為、継続して、実施するための仕組み作りが必要。
稼働率を上げるために、告知の仕方を考える。
当初の目的と実施後の目的が合致しているか。目標がぶれない為に常に何の為に、このプログラムを実施しているかを考える事。

3　事業性

［地域活性化に向けた取り組みにあたり、どのような需要（利用者、金額等）がどれくらいあったと判断しているか記載してください。］

今回、大分市内で初めてとなるまち歩きイベントであったが、289 人が参加した。

今回、30 のまちあるきプログラムを実施し、同じまちあるきという括りではあるが、実際には、プログラム毎に男女比の比率がかなり変化する傾向が強く(例：ソーリン・ナンバンみちくさ散歩 80%男性、例：都町イケメン巡りツアー100%女性)男女比の比率の変化が大きかった。
また、今回は、中心市街地のまちあるき特に、商店街等を歩くまちあるきの需要が高く(例：大分のまちなか・いにしえ・たどり道 8 名中 19 名の参加 238%の稼働率)金額が安く押さえられていた事もあり、こうした需要の高いまちあるきを今後は、継続的に実施できるよう、来年度は定例化に向けて取り組んでいく予定である。
事業性が考えられるもう一つの特徴あるまちあるきは、「街のお花屋さん巡り」である。これは、誘い人が実際に事業者である生花店主で、まちなかの他の生花店を紹介して歩くプログラム。これは、他の業種でもシリーズ化が可能であり、街で商売をしている業種で定例化できれば、地域活性につながり、街へ来ていただけるきっかけ作りも合わせて提供できる。
来年度の大分みちくさ小道の事業は、まちあるきプログラムの定例化、ガイド育成事業、大分みちくさ小道の実施を予定。

4　今後のスケジュール

［今年度の事業実績や次年度以降の事業展開について、表などを使って記載して下さい。なお、予定事業の開始時期を必ず記載してください。］

7 月～10 月　誘い人育成
10 月～　　みちくさ小道プログラム参加者募集
11 月　　みちくさ小道プログラムの実施
12 月　　検証会の実施
（今後の予定）
2 月～3 月　町の調査事業
4 月～6 月　プログラムの定例化へ向けた取組
7 月～10 月　誘い人育成事業
10 月～　　みちくさ小道プログラム参加者募集
11 月　　みちくさ小道プログラムの実施
12 月　　検証会の実施

みちくさ小道収支予算

(1)収入の部

区分	当初		変更後	
	予算額	積算の根拠	決算額	積算の根拠
県補助金	1,000,000	1,690×3/5	932,000	1,554,731×3/5
その他	720,000	ガイドブック掲載費用 5 千円×20 プログラム=100 千円 10 千円×10 プログラム=100 千円 協力金（ガイドブック広告料） 20 千円×20 社=400 千円 大分みちくさ小道負担金　120 千円	686,731	プログラム造成者からの寄付 132,630 協力金（ガイドブック広告料） 10 千円×2 社＋20 千円×5 社＋ 30 千円×1 社＋40 千円×1 社＝ 190,000 協賛金 大分都心まちづくり委員会 100,000 大分みちくさ小道負担金　264,101
計	1,720,000		1,618,731	

（2）支出の部

区分	当初		変更後	
	予算額	積算根拠	決算額	積算根拠
報償費	156,000	講師謝金 24 千円×1 人＋5.5 千円×4 人＋ 55 千円×2 人　＝　156,000	134,000	講師謝金 7/27 野上氏　24,000 8/18 えんぱく日高氏　55,000 12/16 総社加藤氏　55,000
旅費	93,000	講師交通費　93,000	46,480	講師費用弁償 7/27 野上氏　980 8/18 日高氏　8,240 12/16 加藤氏　37,260
賃金	120,000	プログラム運営費（交通費等） 2 千円×2 人×30 プログラム= 120,000	156,140	プログラム運営費（交通費等） 156,140

印刷・ 消耗品費	311,000	ガイドブック作成費用 ポスター作成費用 文具等	210,000 29,400 71,600	(262,856) 241,856	ガイドブック作成費用 ポスター作成費用 文具等	(210,000) 189,000 29,400 23,456
委託料	(970,000) 940,000	ｶﾞｲﾄﾞﾌﾞｯｸﾃﾞｻﾞｲﾝ費用 ｶﾞｲﾄﾞﾌﾞｯｸ郵送委託費 ｵﾝﾊﾟｸｼｽﾃﾑ費用	70,000 350,000 550,000	(968,900) 925,900	ｶﾞｲﾄﾞﾌﾞｯｸﾃﾞｻﾞｲﾝ費用 ｶﾞｲﾄﾞﾌﾞｯｸ郵送委託費 ｵﾝﾊﾟｸｼｽﾃﾑ費用	(70,000) 63,000 348,900 (550,000) 514,000
通信費	30,000	通信費 10 千円×3 月		14,395	電話代 郵送費	9,000 5,395
使用料	40,000	10 千円×4 回		35,960	会場費等	35,960
計	(1,720,000) 1,690,000			(1,618,731) 1,554,731		

（法第 28 条第１項「前事業年度の財産目録」）

平成 24 年度　財産目録

平成 25　　年 2　月　1 日現在

特定

科目	金額	
Ⅰ　資産の部	0	
１．　流動資産	0	
現金預金	0	
手元現金	0	
××銀行普通預金		
未収金		
××事業未収金	0	
……		
流動資産合計	0	
２．　固定資産	0	
（１）有形固定資産	0	
什器備品	0	
パソコン１台	0	
応接セット	0	
……		
歴史的資料	0	
……		
有形固定資産計	0	
（２）無形固定資産	0	
ソフトウェア	0	
財務ソフト	0	
……		
無形固定資産計	0	
（３）投資その他の資産	0	
敷金	0	
○○特定資産	0	
××銀行定期預金	0	
……		
投資その他の資産計	0	
固定資産合計	0	
資産合計		
Ⅱ　負債の部	0	
１．　流動負債	0	

	未払金	0	
	事務用品購入代	0	
	・・・・・・・・・・・・	0	
	預り金	0	
	源泉所得税預り金	0	
	・・・・・・・・・・・・		
	・・・・・・・・・・・・	0	
	流動負債合計	0	
２．	固定負債	0	
	長期借入金	0	
	××銀行借入金	0	
	・・・・・・・・・・・・		
	・・・・・・・・・・・・		
	固定負債合計	0	
負債合計		0	
正味財産		0	

（法第 28 条第 1 項「前事業年度の計算書類（貸借対照表）」）

平成 24 年度　貸借対照表

平成 25　年　2 月　1 日現在

特定非営利活動法人大分

科目			金額		
Ⅰ	資産の部		0		
	1．	流動資産	0		
		現金預金	0		
		未収金	0		
		……			
		流動資産合計	0		
	2．	固定資産	0		
		（1） 有形固定資産	0		
		車両運搬具	0		
		什器備品	0		
		……			
		有形固定資産計	0		
		（2） 無形固定資産	0		
		ソフトウェア	0		
		……			
		無形固定資産計	0		
		（3） 投資その他の資産	0		
		敷金	0		
		○○特定資産	0		
		……			
		投資その他の資産計	0		
		固定資産合計	0		
	資産合計		0		
Ⅱ	負債の部		0		
	1．	流動負債	0		
		未払金	0		
		前受民間助成金	0		
		……			
		流動負債合計	0		
	2．	固定負債	0		
		長期借入金	0		
		退職給付引当金	0		
		……			

		固定負債合計	0	
	負債合計		0	
Ⅲ	正味財産の部		0	
		前期繰越正味財産	0	
		当期正味財産増減額	0	
	正味財産合計		0	
	負債及び正味財産合計		0	